じて近世久留米、柳河、福岡、秋月、小倉等諸藩の史料をその據るところの原形に從つて或は編年體に或は志表の體に集め最後に明治初年の縣治史料を添へてゐる。かくてその收錄するところは、固夫々獨立の史料ではあるがまた全編を通讀すれば自ら縣史沿革の概要を知るを得しむるやう心せられたものゝ如くである。從つて例へば五條家文書に就いても現存三百數十通全部を載せることをなさず就中特に重要なる史實に關係あるものゝみを選んで之を年代の順に配し、その內容關係事蹟に就いて簡單なる解說を加へ、また近世「筑前國田畠之高村々指出前之帳(金吾中納言殿の時之分)」、「人畜御改帳(元和八年)」等の記錄を收めるにも之を「天正年間筑前各郡村田畠高」、或は「元和八年豐前の戶口調査」等と題して之を現今の統計表の如き形に整理して一覽相互の比較を容易ならしむる樣の方法を用ひてゐる。

惟ふに近時鄉土主義の唱導流行と相俟つて地方に於いて縣史郡史等の編纂されるものはその數極めて多い。然もその採る所の方法體例等に於いては未だ容易に以て一般の準據とするに足るが如きものを見出しえないやうである。或は古き地方誌の型式を守つて地理、政治、經濟、敎育、風俗等諸の編の中に强ひて關係事項を拾ひ集め、或はまた偶然なる史料の存否に左右されて敍述輕重簡繁の當を失するものが多い。而してかゝる困難を知るものは寧ろ資料そのものゝ蒐集と整理とを以て姑く編纂に代へようとする。今、本縣史資料はこの第三の道を採るものといふべく、またその地方の事情に勘へて然るべきことと思はれる。たゞ本書が「古代よりも近代に重きを置き治亂興亡に關する資料よりも民政に關する資料を多く採錄」することを主旨としたが爲とはいへ、この縣が特に他のいづれの縣とも異つてその誇とすべく、我々も亦最も關心を寄せる所の、大宰府を中とせる時代に就いて殆ど何等の重要なる史料をも載せてゐないのは如何であらうか。考古學的資料は姑く之をおくとするも文獻上の資料は努めて之を網羅する樣ありたく、少くとも古代編年史料を何が故に持統朝にとゞめて之を六國史の全時代にまで及ぼさなかつたかは洵に了解し難いところである。また中世に於ても元寇に關する史料の如き必ずしもたゞ治亂興亡に關する事項とのみは言ひ難いであらう。尤もそれらはいづれも第二輯以下に於いて當然採收せられようことゝは察せられるが、官廳の事業として調査や蒐集の上に特に多くの便宜を有せられるのであるから、特に包括的にして偏倚なきを期せられたいと思ふ

菊判八〇五頁、圖版三葉、地圖三葉、福岡縣庶務課發行、定價金五圓)〔柴田〕

●京都府史蹟名勝天然紀念物調査報告 第十三冊

京都府史蹟勝地保存委員會の昭和五・六兩年度の調査の成果を公表せるもの、史蹟の部は、京都市「淸和院」、乙訓郡「羽束師川」、綴喜郡「東車塚庭園・山淵寺遺蹟」、加佐郡「桂林寺」、與謝郡「禪海寺・日吉神社と天長寺」、熊野郡「迎接寺」、京都市祇

園町古錢出土地の九項目に亙り、臨時委員佐藤虎雄・向居淳郎・柴田實三氏の執筆に係る。

前諸册の體裁に倣つて、寫眞實測圖を豐富に用ひ、記事の明確を期してゐるが、就中東車塚庭園は建築造園に關しても各專門學者の報告を併載して、綜合的見地から史蹟としての價値が鮮明にせられてゐる。

又今日退轉して史蹟としての鑑定的素材の湮滅して了うた清和院、今尙活用せられて趾とは稱せられず、その爲に斯界の注意を惹いてゐない羽束師川に就いて、博く記錄を探り、此等の史蹟の內に祕められた歷史的意義を前景に抽出して、明確に此を敍述してゐるのは、京都府が古來我國文化の中樞地として、古文獻の遺存するもの多きに基くとは云へ、その勞や思ふべく史蹟顯彰の目的より見て注目すべき報告である。「本文四六倍版一四五頁、圖版五二葉、京都府刊、非賣品」〔赤松〕

彙　報

●故今西博士著作目錄增補

朝鮮寺剎史料を紹介す　佛教史學　一編　九號
鄭鑑錄解題　同　一編　十號
朝鮮智異山華嚴寺緣起につきて　同　二編　八號
高麗普覺國尊一然につきて　龔　文　九年七號八號
正德刊本三國遺事に就て　典籍の研究　第五號第六號
樂浪帶方につき　文教の朝鮮　第四十一號
順庵安鼎福自筆の著述目錄　京城雜筆　昭和四年五月號
全羅北道西部地方旅行雜記　文教の朝鮮　第四十五號
第四十六號　第五十八號　第六十號
第六十一號　第六十三號
隋作金度信平濟頌碑文と扶餘　朝鮮及滿洲　昭和四年六月號
新羅圓光法師傳　思想と生活　昭和四年七月號
アレキサンダー、チョーマ、ケロエシ傳
朝鮮及滿洲　昭和四年七月號八月號
百濟史講話（未定稿）　文教の朝鮮　第五十九號
第六十七號　第七十五號　第七十七號
第七十八號　第七十九號　第八十號
第八十一號